

事例紹介

たけお
佐賀県武雄市立 **武雄小学校**



マイタブレットでまとめドリル！
～スマイル学習+eライブラリで理解を深める～

武雄小学校では、1人1台のタブレットを授業内外で幅広く活用しています。今回は学習内容の定着をねらいとした授業でのドリル利用の様子と、「スマイル学習（武雄式反転授業）」と併用した実践についてお話を伺いました。

授業 10分のドリルで、学習内容の定着

6年生の算数「分数÷分数」の単元で、授業の最後にeライブラリのドリルを利用しました。

● **前学年の関連単元を確認！覚えているかな？**

この日は算数の「分数÷分数」の初回ということもあり、ドリルで5年生の関連単元の復習を行いました。

次の時間からはその日に習った内容のドリルを行うのですが、**単元の最初の時間は、関連単元の既習事項を確認し、復習として利用**しているそうです。

子どもたちは5年生で習った学習を思い出しながら、一生懸命ドリルに取り組んでいました。



▲タブレット操作にも慣れた様子で真剣に取り組んでいます



● **基本問題で定着→標準へ挑戦**

今村先生のクラスでは、**最初は全員「基本」問題から**解くようにしています。その後は子どもたちのペースで標準から挑戦へと進んでいきます。

先生は子どもたちの進捗を見ながら、**10分間の中で基本問題で止まっている子や、×が多い子どもに、個別フォロー**を行うそうです。

子どもたちは限られた時間で「**挑戦までやりたい！**」と、高いレベルの問題を求めて意欲的に取り組んでいました。

情報担当 今村 公紀 先生のお話



本校の昨年度のeライブラリの実施状況で**一番多く利用されていたのは算数**でした。算数では**計算などの技能的な部分を定着させるのに大変役立っています。**

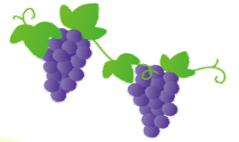
ドリルは問題数が多いので、**教科書の問題では足りないところが補えますし、難易度別に分かれていますので、子どもたちが意欲的に取り組みます。**

今後も、話し合い活動を中心とした授業の中で、「**言葉で説明する力**」の育成に力を入れながら、最後の10分のドリルでは**しっかり学習内容を定着させるよう**、授業を進めていきたいと思っています。

授業

児童の「あたりまえ」になったタブレット

5年生の社会の時間でも最後の10分でドリルを活用していました。



机の上には教科書・ノート・タブレット

子どもたちの机の上には、授業の最初からタブレットPCが教科書やノートと一緒に当たり前のように並んでいました。

使用したのは授業の最後10分のドリル学習でしたが、**それまで子どもたちはタブレットを触ることもなく**、授業に集中していました。

子どもたちは利用ルールを守りながら、**メリハリをつけた活用**を自然と身に付けていったそうです。



タブレットのドリル学習は楽しい!

子どもたちは、各自のペースで黙々と社会の問題に取り組んでいました。中には難しい問題に正解すると、**ガッツポーズ**をして、クラスメートの邪魔にならないよう、**声を出さずに喜んでいる**子どもの姿も見られました。

ドリルを終えた子どもたちに感想を聞くと、「**ドリルの勉強は楽しい!**」「**難しい問題を解けると嬉しい!**」と、元気いっぱい答えてくれました。



運用

「スマイル学習」のサイクル

武雄市では昨年度からタブレットを家庭に持ち帰り、動画コンテンツを使って学習する「スマイル学習」（武雄式反転授業）を実施しています。スマイル学習とeライブラリの関わりについてご紹介します。

家庭

動画コンテンツを使い、基本的な知識を身に付けます。

予習

動画で予習

わからない箇所は個人のペースで繰り返し確認できる

授業

子どもたちが**基礎的な知識を身に付けてきた**上で、**話し合い活動を中心とした授業**を展開できます。授業の最後には、学習内容の定着のため、**ドリルで演習問題**を行います。

グループ学習

話し合い・学び合い活動

- ・「言葉で説明する力」を授業で育む
- ・学習への理解を深める

演習

確認・定着

学習内容をドリルで確認し、定着させる



教務主任 田崎 正剛 先生のお話



タブレットが児童1人に1台導入され、活用方法を検討する際に、**それぞれのソフトの特長に合わせて活用場面を考え**、ICT推進員と一緒に校内に広めていきました。その中で**eライブラリの役割は「学習内容の定着」と位置付け**、**授業内で使う**よう案内しました。

算数と理科では、スマイル学習と授業で習った内容を、**eライブラリのドリルで確認し、定着させる**という**学習サイクル**も生まれています。今後も本校の子どもたちの実態を踏まえ、学校のカラーやスタイルに合わせた活用をしていきたいと思っています。